



西南学院大学

# 図書館報

№. 93

昭和57年(1982年)11月1日発行

〒814

福岡市早良区西新6丁目2番92号

西南学院大学図書館

## 始めから終りまで

文学部長 田中輝雄

去る十月四日付のタイムとニュースウィークの両誌は、その「宗教」欄でともに一つの同じことをニュースとして取り上げた。それは、かのリーダーズ・ダイジェスト社が英訳聖書のダイジェスト版を出版したということである(816ページ、16.95ドル)。

リーダーズ・ダイジェストといえは、周知のとおり、まず月刊誌であって、雑誌などの主要な記事を世界十六ヶ国語で要約し、てっとり早い形で読めるように読者に提供しているものである。月々、全部で三千万部以上出ていると豪語している。その他に、ベストセラーなどの要約版が単行本としても出ている。そして、いわゆる「ダイジェスト版」という、あまりニュアンスのよくない表現の元祖みたいになっているものだ。

この度は、同社がキリスト教の聖典、「神の言葉」である聖書に挑んで全体の約四割(旧約では約半分、新約では約四分の一)を切り捨てたり、縮めたりして「リーダーズ・ダイジェスト・バイブル」を出したのであるから、ニュースになったのも当然といえよう(テキストには一九五二年の改定標準訳、RSVを使用)。

神の言葉を人間の手で勝手にいじり、短くするなどのもつての外、冒瀆である、とする人は当然神学者や聖書学者、また敬虔な信者に多いようである。タイム誌はだいたいこの立場から報じている。そして、この仕事によって「リーダーズ・ダイジェストは悪魔に手をかした」というある新聞の批

評を引いている。一方ニュースウィーク誌は、見出しを「読むための聖書」としているように、この仕事を一応評価する立場である。生命の書といわれる聖書も実際に手にとって読む人、まして読み通す人は少ない、特に旧約はあまりにも膨大で繰り返しや人名、戒律などのリストが多いので、そこをうまく要約して、多くの人が一巻の「小説のように」読み通せるようにということを狙った、という編集者たちの目的をふまえ、そこからこの版を評価している。欠点はあるにせよ、神のメッセージに触れるには相当の価値がある、というわけである。

詳細について興味のある人にはこの記事を読んでいただくこととして、私が面白いと思ったのは、この仕事をするに至った編集者たちの意見、「聖書は他の良書と同じく、始めから終りまで(表紙から表紙まで)読み通すべきだ」という確信」という表現であった。古典や良書、傑作を読み、と人に勧めることは易しいが、私自身にとっても一巻の書を読み通すことはそうたやすいことではない。特に文学作品には「ほんもの」に直接当たって全体を味読することが重要であることはいままでもないが、読む内容の種類により、また目的によっては、「ダイジェスト」や一部抜粋でも全然読まないよりはまし、とすべきであろうと思う。メルヴィルの『白鯨』など、初めは脱線や冗長なところは飛ばしてでもまず読み通して欲しいものである。

文学部教授(米文学)

## 経済学部経済学科3年 高下智行

試験の期間になると特に図書館に行くということが、暗黙のうちに勉強をしに行く、になってしまうからいけない。さらに、最近はこの傾向が強くなったので少し自分がなさげなくなる。

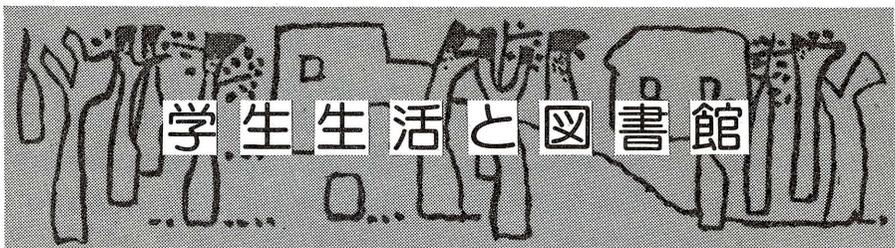
確かに図書館という所は、本来勉強をする場、試験中お世話になる所であり、研究の資料探しにくる所でもある。しかし、それだけではどうもゆとりがなく、不自由である。もっと自由な気持で、気軽に、何の目的もなく足を運ぶ様にならなくてはと思う。

図書館には確かに堅い本ばかりがズラリと並んでいる。しかし、その中にもわりに気軽に読める本もあり、案外自分の先入観で決めてかかっていたため、誤解していた本も多い。たとえば科学に関する本というのは、全く自分に関係のないものと思っていた。ところが、先日、ふと、自然科学関係の書棚を見ていて、天文に関

するなかなか興味深い本を見つけ、いっきに読んでしまった。こういう事があるからこそ何の目的も持たずに図書館を訪れるのは楽しい。

結局、自分にとって図書館は、そこで費した時間が学生生活の大部分をしめる、というほど勉強した訳ではないので、そう大きな存在だとは言えないが、何よりもパードウォッチングならぬブックウォッチングを楽しむための場、自由な気持で、「何かおもしろいもの」を捜しにやって来る場、そういう場としてあるのが一番理想的だと思っている。あまり窮屈なイメージを持っていると、ついつい近よりがたくなる。

確かに、学生時代に図書館にこもって一つの研究に打ち込む、というのが学生本来の姿かもしれない。しかし、自分にはそんなことはできないからと言って、図書館には試験中しか行かない、というのも少々極端すぎる。一ヶ月に一回でもいいと思う、ひまを見つけて、図書館の中をブックウォッチングしてみるのもいいと思う。



## 商学部商学科3年 末安祥子

私たち学生にとって、図書館とはきってもきれないものであり、またなくてはならないものである。

人それぞれ図書館の利用法はさまざまであると思う。中には、まだ大学に入学して一度もわが学院の図書館を利用したことがない人もいるかもしれない。そういう人たちは、一度でいいから図書館で、自分の興味ある本からでもよいから読んでほしい。そうしたら、図書館をただ単に毛嫌いなことなく、これから、自分の必要と目的に応じた図書館の利用法というものを見出さうと思うからである。私は、この自分自身なりの図書館の利用法を見出すことが大切だと思う。見出すことによって、自分自身の知識や視野などをさらに広めることができるし、そうすることによって、学生生活も、充実したものとなりえると思うのである。

図書館というものを、堅苦しいものとしてとらえるので

はなく、学生にとって一番身近なものとしてとらえることが必要だと思う。身近なものとして図書館をとらえるならば、学生生活の中で私たちに、うるおいを与えてくれるのではないだろうか。私にとって、自分が図書館にいる時、何かほっとした気持ちになるようなうるおいがあるからこそ、図書館は、私にとってなくてはならないものなのである。

図書館は、多くの書物との出会いや色々な感銘を与えてくれ、さまざまな疑問をなげかけ、そしてその疑問を解く鍵をも与えてくれる。そこは、単なる学問追求だけの場では決してないと思う。このような多くの書物とかかわりあっていくことによって、自分自身が高まっていくことができるということは、すばらしいことではないだろうか。

これからも、図書館は、私にとって、多くの書物との出会いの場となり、多くの感銘を与えられる場であると思うし、ずっと学生生活のうるおいとなるであろう。

## 各種研修会参加レポート

### 「第3回大学図書館研究集会」 「第1回電算機事務処理利用研修会」に出席して

杉野 哲谷

コンピュータ社会の今日、業務の電算化とネットワークに対する関心が深まっている中で、電算関係2つの研修会に出席させていただいたことを感謝しています。

以下その概要を記しますと、

第3回大学図書館研究集会は、京都の立命館大学で9月6日(月)、7日(火)の2日間に渡り、国公立大学の図書館関係者約300人の参加で、パネル・ディスカッションとグループ討議を中心に行なわれました。パネル・ディスカッションでは、各専門のパネラーのそれぞれの立場により、これからの図書館に対する要望、助言、展望などがあり、パネラー同志の討議なども行なわれました。図書館界の将来を知る上で大変参考になるものでした。

またグループ討議では、参加者の希望により、6つのグループに分かれ、私は、第4グループの目録業務に参加しました。小田先生の指導のもと主にJAPAN/MARCの利用と今後の目録業務についての討議が行なわ

れました。1日目の終りには懇親会も行なわれ、和気あいあいの内に打ち解けた雰囲気生まれ、お互いの交流を深めるのにふさわしいものでした。

また第1回電算機事務処理利用研修会の方は、大阪ガーデンパレスで9月20日(月)、21日(火)、22日(水)の3日間に渡り、私学電算事務関係者271名の参加で、講演、グループ討議、全体討議とこれもディスカッション中心で行なわれました。グループ討議では、図書館業務に参加しましたが、参加者11名と以外に少なかったのですが、それぞれに自館の実状と他館の状況などを比較して、今後の業務に取り入れようという意欲がうかがえました。

以上電算関係研修会2つに出席した概要を記しましたが、今後も電算化の波は大きく押し寄せて来るものと思われれます。しかしそれに押し流されないよう、うまく利用する方向で、研修会の成果も踏まえて頑張っていきたいと思えます。

(本館司書・電算係)

### 司書講習に参加して

私は、7月12日から9月10日まで、佐賀龍谷短大で行なわれた司書講習に参加した。これを読んでいる皆さんの中には、司書講習という言葉すら聞いたことがないという人もいると思うので、司書講習とはどういうものか説明してみよう。まず、司書とは図書館の専門的業務に従事する者であり、その資格を得る為には、大学(通信教育も含む)で、図書館学のコースを選ぶか、文部大臣が委嘱した大学で行なわれる司書講習を受講するかのいずれかである。司書講習の場合は、毎年夏休みに行なう所が多く、九州では別府大学が毎年開講している。さてその内容だが、約2ヵ月に渡り、朝9時から5時まで、講義がある(科目数は選択4科目を含めて、13科目、19単位となっている)。講義の形式は、大学と全く同じで、一科目講義が終了するごとに、科目終了試験及びレポート提出があり、それに合格すれば単位が認定される。でも

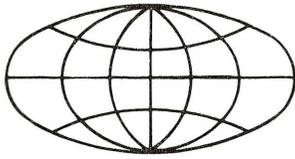
渡 辺 浩 之

合格しない人など、ほとんどいないし、また追試もあるので、講習を受けようと思っている人はご心配なく。受講生はやはり現職が多く、あとは学生と社会人である。現職と一口に言っても、学校図書館、公共図書館それに大学図書館と職場が異なり、それぞれの立場からの意見や悩みなどが、聞けたことは、有意義であった。そして、彼らの図書館に対する情熱に圧倒され、授業は非常に活気を帯びたものとなった。

司書講習は、司書の資格は取れるが、それは、あくまでも図書館学の入口であり、概論にすぎない。私は、これからこの経験を生かして、真の司書を目指したいと思う。

最後に、学生の皆さんで、将来、図書館に勤めたいと思っている人、司書講習の話を聞きたい人は、図書館に気軽に来て下さい。いつでも相談に応じます。

(本館司書・洋書整理係)



外国図書館シリーズ

— イギリス —

## オックスフォード大学図書館

University of Oxford

Wellington Square, Oxford, OX1 2JD

文学部教授 八田正光

Oxford 大学の図書館諸施設を使いこなし得るようになるには、かなりの日数を要する。Oxford 大学には大学中央図書館のほか、各専門分野の図書館があり、更に各コレッチ所属の図書館がある。この場合コレッチは学寮と解した方が適切である。Oxford 大学には34のコレッチがある。

大学中央図書館は Bodleian Library とよばれ、次の諸施設を含んでいる — The Old Library, The Radcliffe Camera, The Clarendon Building, The New Library, 及び The Radcliffe Science Library, The Bodleian Law Library, Rhodes House Library, The Indian Institute Library。

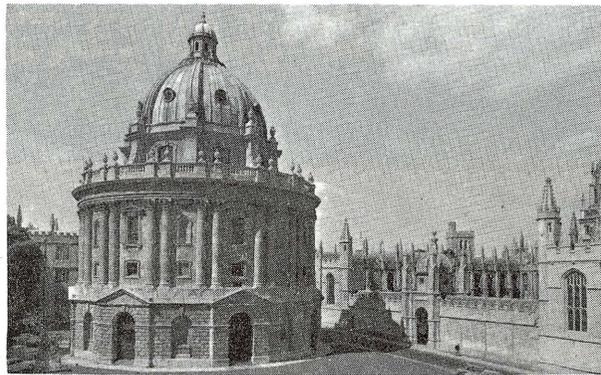
さて、図書館の利用方法から説明しよう。まず登録部門で入館許可証交付手続きをとらなければならない。各自所属するコレッチの校長による推薦状を持参し、所定用紙に記入したあと、登録係官の前で次の誓約書を朗読しなければならない。黙読はゆるされない(学生の

場合、ガウンを着用して、コレッチ毎に係官の前で朗読)。

「私はいかなる書物、記録文書、あるいはその他図書館に所属し、保管されているものを図書館から移動させたり、あるいはしるしをつけて汚損したり、あるいはいかなる方法でも損傷を与えるようなこと、また図書館内にいかなる火や火災をも持ち込んだり、燃やしたり、また図書館内での喫煙はしないことをここに約束いたします。また図書館の全規則に服従することを誓います。」朗読のあと署名して、入館許可証カードが交付される。またこのカードにも係官の前で署名しなければならない。

入館の際、このカードに係官に提示する。The Old Library の場合、図書カタログはカードシステムでな

く、大部の革表紙帳簿に記入されている。それを手にするとき、歴史と伝統の重みを感じる。この帳簿は1930年以前と以後に区分されて、アルファベット順に書架に配列されている。閲覧用紙に図書番号等のほか、入館許可証番号と閲覧室座席番号を記入して受付に申し込む。約三時間経過して、本を受取ることができる。開架図書閲覧の場合は、閲覧用紙を本の配置されている場所に挿入して、自分の座席まで持ち運ぶことができる。しかし館外貸し出しは一切許可されていない。退出の際、返却部門デスクまで持参し、返却か保管(二週間まで可能)かを告げねばならない。退館の際、受付で所持品の検査を受ける。



(Bodleian Library, The Radcliffe Camera)

本のコピーを希望する場合、ゼロックス・コピー制度はあるが、いろいろな制約を伴っている。筆者は約百年前に出版された一冊の本全体のコピーを申し込んだことがある。まず所定用紙にコピーが研究のためであることを記入して署名し、その閲覧中の本を持って係官に提出した。係官は Reference 部門で

著者の死亡年月日を調査した結果、「今年(1930年)は著者の死後49年目にあたるので、まだ本全体のコピーは出来ない。本の10%以内ならば可能であるが、本全体のコピーは著者の死後50年を経過していなければならない」と返答した。しかし、来年は帰国して不在である旨を述べ、またその本が Copyright にさほど厳しくないドイツ語図書でもあったゆえに、特別の計らいで受理された。コピー料金はサイズの如何にかかわらず一枚10ペンス(45円)である。コピーの受渡しは三・四日後。学術雑誌コピーの場合、同じ年号または同一巻の中から一つの論文に限定されている。このように Bodleian Library は、伝統と規則のもとに厳しく規制されている。

しかし、筆者の専門分野の場合、他に Pusey House Library がある。ここは司書が一人いて、自由に閲覧でき、館外貸し出しを行なっている。コピーも備え付けの機械で各自自由に任されている。しかも料金は一枚3ペンス(13円)。この外、各コレッチの図書館も利用することができる。しかし古い、貴重な高価図書の場合は、Bodleian Library に行かなければならない。

このように Oxford 大学の場合、伝統と規則に従った厳しい面と、他方では全く自由な信頼された面とがそのまま併存している。一方の規則と方針が他を干渉し規制して、一律化されることもない。また利用者も異議をとなえることなく上手に使いわけしている。ここにも英国のユーモアを表わしている一面があるかと思われる。

(キリスト教学)

## レファレンス事例(10)

### 参 考 係

最近利用者から寄せられた参考質問のうちから、2・3の事例を紹介して、他の利用者の参考に供したい。

【質問1】 低開発国の人口予測をした資料(なるべく最近のもの)を入手したい。

回答例: 国連から次のような資料が出ている。

World population prospects as assessed in 1980: population studies, No.78, 1981 (ST/ESA/SER.A/78) 世界の地域別、国別に1980年以降5年毎に2025年までの人口、増加率、死亡、出生について、低位、中位、高位予測の数値を示す統計表が掲載されている。

【質問2】 世界の民族衣装がカラーで出ている資料がほしい。

回答例: 「民族衣装」正・続(世界の服飾1、2) A. ラシネエ(原著)、石山彰(監修)(昭51~52、アール社)、「服装大百科事典」上・下(昭44、文化服装学院)、それに百科事典も参考になるだろう。例えば「国民百科事典」(平凡社)の民族衣装の項目を見ると、小池一子氏の監修として、カラー4頁にわたる世界の民族衣装が紹介されている。また上記ラシネエの「世界装飾図集成、全4巻」が出ているが、本館には所蔵していなかった。

【質問3】 京都大学法学部の林良平教授の還暦記念論文集の上が昨年ごろ出版されたと思うが、それ以降の巻(中・下)が出ているかどうか知りたい。また正式な図書名を知りたい。

回答例: 昨年の出版物の調査をする場合、年刊の例えば、「日本書籍総目録」(日本書籍協会)等の最新版

にはまだ載っていないことが多いため、出版社がわかっているのに、有斐閣の近刊書案内「有斐閣図書目録」(法律・政治)(昭和57年1月現在)を見ると載っている。図書名は、「現代私法学の課題と展望」林良平教授還暦記念論文集で、上巻は既刊になっているが、中、下については続刊となっている。

【質問4】 ILO第59回総会(1974)における、有給教育休暇に関する勧告の全文がほしい。

回答例: 開催年がわかっているので、「雑誌記事索引」の累積版(昭45~49年)を見る。内容が労働条件に関するものなので、労働編のILO条約・勧告の項を見ると、この審議の経過、解説記事等いろいろな資料が見られるが、ただ条約そのものだけほしい場合は、「賃金と社会保障」655(74.8.10)P55~57に「有給教育休暇に関する条約」として勧告の全文が出ている。

【質問5】 日本における小・中学生、児童・生徒1人当りの教育費を知りたい。

回答例: 「日本統計索引」(日外アソシエーツ)で何を見たら載っているかを調べる。これを見ると「文部統計要覧」(文部省)と「日本の統計」(総理府統計局)に載っていることがわかる。この「日本統計索引」はいろいろな統計データを探するとき、そのデータが何を見たら載っているかを調べるときに使用するツールである。

ちなみに「文部統計要覧」(昭和57年版)で、児童・生徒1人当りの教育費を見てみると(昭和55年度)

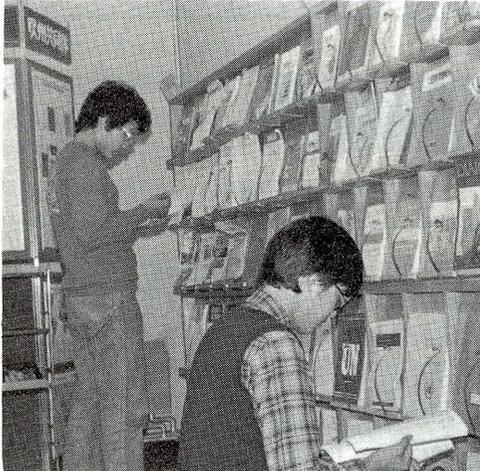
小学校 433,730円

中学校 529,696円

UNITED NATIONS  NATIONS UNIES

国連寄託図書館だより — その①

その紹介と利用法



Q. 西南の国連寄託図書館の沿革について知りたい。

1968年6月に国際連合により国連寄託図書館設置を認可され、私立大学で最初の設置校となる。1969年3月にEC資料センターとして、また同年4月にはOECDの寄託図書館として認可される。1975年1月、OECDの寄託制度は廃止となり購入制度となって協力資料館となる。

Q. 国連寄託図書館とは何ですか？

国連が各国の公的図書館に国連の刊行する資料を寄託して常時一般に無料公開しているところで、日本には現在11館あり、九州には西南を含め、2館ある。

Q. 国連資料にはどんなものがありますか？

国連資料は、(a)文書、(b)公式記録、(c)刊行物から成っている。(a)文書は機関内で使用されるもので、加盟国代表及び事務局等の国連内部を対象としたもので、普通は販売されず、多くは謄写版印刷である。通常、会期前と、会期中に配布される。(b)公式記録は、総会、安全保障理事会、経済社会理事会、信託統治理事会、貿易開発理事会(総会下)及び軍縮委員会(総会、安全保障理事会下)の6種類で、各機関の会議における討議の記録と関係文書及び補遺から成っており、会期終了後内容が修正され、活字印刷で再出版される。(c)刊行物は、国連の記録・業績・情報を広い範囲に伝える目的で、国連事務局が発行するもので、本印刷されており、販売される。その他に

国連専門機関の発行する各種の報告、研究、統計等の刊行物もある。

Q. 国連刊行物は、どんなカテゴリーに分れているのですか。

I	一般(国連全般)	VI	信託統治
II.A	開発	VII	政治及び安全保障問題
II.B	経済開発	VIII	運輸及び通信
II.C	世界経済	IX	軍縮及び原子力
II.D	貿易、財政、商業	X	国際行政
II.E	ヨーロッパ経済	XI	麻薬
II.F	アジア経済	XIII	人口
II.G	ラテンアメリカ経済	XIV	人権
II.H	技術援助	XV	救援及び復興
II.K	アフリカ経済	XVI	公共財政と金融問題
IV	社会問題(社会福祉、犯罪等)	XVII	国際統計
V	国際法		

Q. 資料検索の際に便利なツールはありますか？

「近着資料選」(年5回刊) - 東京の国連広報センターに受入れられた国連刊行物を主題別にまとめたもので、新刊資料検索に最良の速報誌。

Q. 開館時間は？

開館時間は、平日9時から16時までで、土曜日及び第1水曜日は、12時に閉館する。

Q. 利用者の資格は？

広く一般の成人(大学の学生を含む)が利用できる。

Q. 閲覧・館外貸出の手続は？

資料の館内閲覧を希望する者は、所属機関の長の発行する身分証明書(学生は学生証)を提示し、利用者名簿に所要事項を記入することが必要である。

資料の館外貸出は、通常行っていないが、特に希望される方は、下記の要領により、機関に対して10冊以内、個人に対しては5冊以内とし、期間は1ヶ月以内で貸出を行なう。(a)本学学生 - 学生証を提示し、ゼミ担当の指導教授の承認を必要とする。(b)学外者 - 所属機関の長の発行する身分証明書及び紹介状を提示し、利用者名簿に所要事項を記入する。

(次号は、EC資料センターの紹介予定。)

(本館司書・国連係 小嶋 哲)

## 資料紹介

利用者の皆さんから、資料紹介欄を設けて、貴重書や大型コレクション等を購入した場合、図書館報で紹介してほしい旨希望もありましたので、今回第一回の試みとして、昭和57年度の私大助成に申請し、その準備金として

購入した資料(4点)を、今回と次号に分けて紹介します。紹介者には、申請責任者の先生方をお願いしました。

今後この資料紹介欄で紹介してほしい資料等がありましたら、編集委員会までお知らせ下さい。

## ■ Mansi, J. D. / Sacrorum Conciliorum Nova et Amplissima Collectio

## マンシ / 公会議史料集

文学部教授 森 泰 男

ヨーロッパの歴史において、キリスト教の果たした役割は大きい。したがって、キリスト教徒でない者もキリスト教史についてかなりの知識をもっている。たとえば、ニカイア公会議において、アリウス派とアタナシウス派が三位一体論をめぐる論争をしたこと、あるいは、クレルモン<sup>1</sup>の宗教会議において十字軍の派遣が決議されたこと等である。それらの会議がヨーロッパ史に及ぼした大きな影響を考えれば、それらについての知識は必要であろう。

しかし、少しつっこんで調べようとすれば、今までは、簡単な概説書や小さな史料集しかなかった。一応の知識を得るためには、それで十分であろう。しかし、周知のように概説書は概説書であって、必ずしも問題を正確につかんでいるとは限らない。史料選集も便利なようで、意外と肝心な所が抜けていたりする。そのためには、どうしても直接詳しい史料にあたらねばならない。このような基礎的な文献を各分野にわたって備えておくことこそ、大学図書館の使命であろう。

今まで、教会会議の歴史を述べたもので日本語で読めるものは、イエティンの『キリスト教公会議史』(Kleine Konziliengeschichte の翻訳)があるのみであった。史料集としては、デンツィンガー・シェーンメツァーの『カトリック教会文書資料集』(Enchiridion symbolorum, definitionum et declarationum de rebus fidei et morum)があり、かなり重宝している。しかし、これも「便覧」(もともと781ページもある)であって、抜けていることは多い。原史料にあたれなくてくやしい思いをした研究者も多いであろう。

その点、今度私大助成に申請したマンシの『公会議史料集新版』(Sacrorum conciliorum nova et amplissima collectio)は本格的なものである。大きすぎて取り扱いに困るほどである。デンツィンガーの『資料集』を開くと、マンシの史料集への参照にしばしば出会う。今度からはそれらの史料に直接あたれるかと思うと、心が躍る。西洋史・法制史・経済史の研究者にも利用していただきたいと願っている。(キリスト教学)

## ■ The Newspaper Cuttings Files of the Council of Foreign Bondholders

## 英国外債保有者協会資料集

経済学部助教授 尾 上 修 悟

国際資本移動に関する研究は、国際金融論の1つの重要な研究分野を成しているが、そうした資本移動の最初のブーム期は第1次大戦前の国際金本位制の時代にみられた。そして同時期の国際資本移動を主導していたのは、いうまでもなくイギリスの資本輸出であった。そこで、国際金本位制の運営の在り方を問う意味でも、また今日の国際資本移動との比較を考える意味でも、当時のイギリス資本輸出についてくわしく検討することは必要不可

欠の作業になるのだが、実は意外なことに、そのことを可能にさせる十分な資料がいまだ見当たらないことに気づく。その意味で、第1次大戦前のイギリス資本輸出に関する研究が歴史的に数多くみいだされるにもかかわらず、確固とした資料に基づく本格的な研究は今後に期待せざるをえないのである。

そうした中で、ロンドンの外国債券保有者協会(The Council of Foreign Bondholders)の報告書から成

る本資料は、当時のイギリス資本輸出の主流であった外国公的機関に対する資本輸出の解明に向けて、一光を投じるものといってよい。具体的に本資料は、19世紀後半からロンドン金融市場（シティ）で発行された外国の公債について、その発行目的や発行条件、あるいはまた起債国の経済状態などに関する詳細な報告から成っている。しかも、記載されている起債国の範囲はきわめて広く、イギリスのすべての植民地と自治領ならびにヨーロッパ各国はもとより、今日のいわゆる発展途上国を形成

したアジア、アフリカおよびラテン・アメリカの主要諸国にまで及んでいる点は、本資料を大きく特徴づけるものである。とにかく、これらの外国公債に関する莫大な報告書はすべて第1次資料として通用するものであり、従来のイギリス資本輸出研究を一步進めるうえで大いに役立つことはまちがいないであろう。本資料が今後できる限り多くの学徒に利用されることによって研究が深化することを切に望みたい。

(国際金融論)

### ☆ ニュース・お知らせ ☆

#### <図書館委員会>

- 57.6.29 ①卒業論文の図書館保管について  
②マイクロ・リーダー・プリンターの購入について  
57.7.9 ①卒業論文の図書館保管について（前回からの継続審議）

#### <研修・出張>

- 文部大臣委嘱司書・司書補講習  
57.7.12～9.10 於：佐賀龍谷短大  
渡辺司書受講  
○57年度私立大学図書館協会総大会  
57.7.22～24 於：法政大学  
糸園館長、刀根司書長出席  
○57年度九州地区著作権講習会  
57.8.18,19 於：佐賀 若楠会館  
今永課長補佐出席  
○第3回大学図書館研究集会  
57.9.6～8 於：立命館大学  
杉野司書出席  
○大学図書館機械化研修  
57.9.9 於：広島大学  
杉野司書出席  
○57年度私立大学図書館協会 九州地区研究会  
57.9.17 於：九州東海大学  
板谷、平田両司書補出席  
○第1回電算機事務処理利用研修会  
57.9.20～22 於：大阪 ガーデンパレス  
杉野司書出席

#### <EC講演会の開催>

昭和57年10月8日(金)に、本学図書館にEC資料センターが設置されているのに関連して、EC本部よりEC委員会名誉総局長ピエール・マイエ氏(フランス・リール第1大学教授)をお迎えして講演会を開催した。演題は「EC産業戦略の過去・現在・未来 ー共同市場創設から産業戦略確立までー」ということで、学内外より約70名の出席があった。

### 告知板

#### ○大学祭期間中の開館

大学祭期間中も平常通り9時から21時まで開館しますが、この間1階学習室は閉室します。

#### ○冬期休暇中の開館時間および休館日

12月25日(土)	クリスマス休館
27日(月)	9:00～12:00
28日(火)	年末年始休館
1月5日(水)	
6日(木)	9:00～21:00
7日(金)	

※この間1階学習室は閉室

1月8日より平常通り開館

#### ○冬期休暇長期貸出（下記対象以外は除く）

学部学生、専攻科生  
12月15日(水)～1月7日(金) 5冊以内  
大学院生  
10月26日(火)～11月19日(金) 20冊以内  
いずれも返却期限は1月18日(火)です。

#### ○卒業年次生へ

卒論用に別途3冊（1ヶ月）貸出中  
先輩の卒論、閲覧実施中（詳細は受付まで）